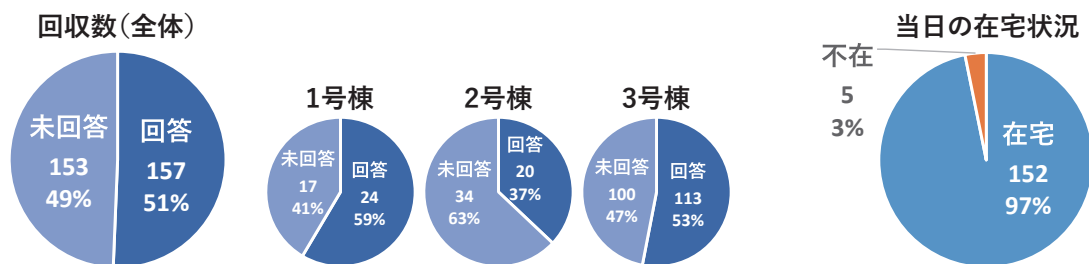


「台風19号通過時に関するアンケート」集計報告

10月12日、日本各地に大きな被害をもたらした台風19号。パーク・ハイム狛江にも多摩川の増水という危機が襲いかかりました。もっとも恐れていた浸水被害は幸いありませんでしたが、刻一刻と増えていく濁流の様子や、ライブカメラの映像、各地の被害を目にして、我が身の危険を感じた方が多かったことと思います。パーク・ハイム狛江ではこれまで水害を想定した防災対策は手薄でした。そこで今回皆さまが感じられたことを今後の水害対策に活かそうと、居住者アンケートを実施しました。

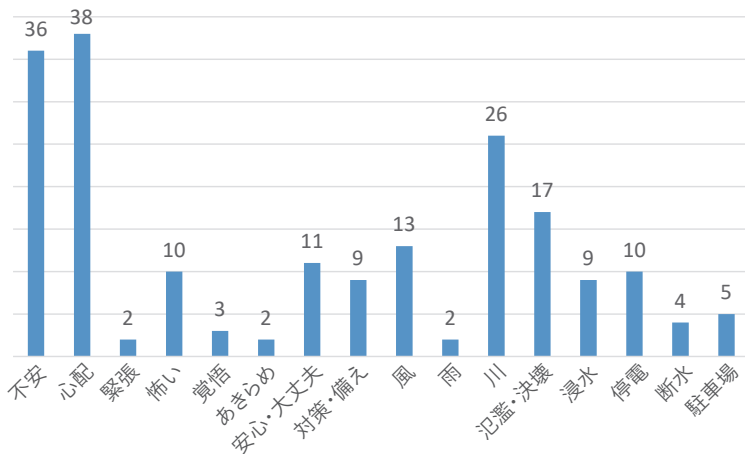
この紙面では集計結果のすべては紹介しきれないので、主なものを取り上げました。



アンケートは台風1週間後の10月19日に配布し、10月末締め切りで集計をしました。

居住者の皆さまの関心は高く、全体では半数以上の方から回答をいただきました。棟別では1号棟にお住いの皆様の関心度の高さが伺えます。前日から交通機関の計画運休や、企業や店舗が臨時休業を決めていたこともあり、当日はほとんどの方が在宅されていました。

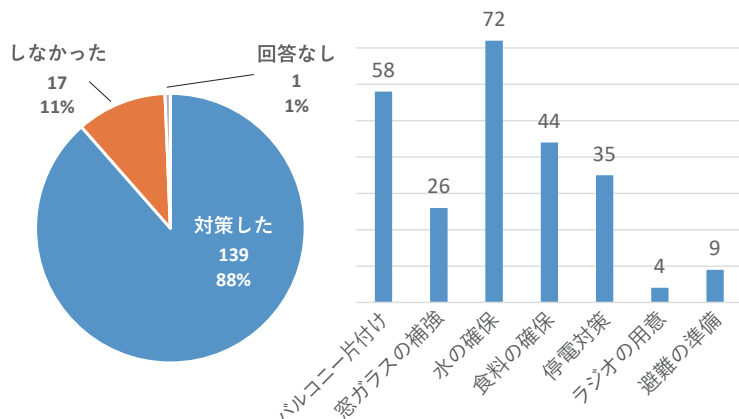
「最大級の台風と聞いたときの気持ち」に記入された主なキーワード



自由記入のこの設問では、「川」や「氾濫・決壊」が「不安」「心配」であったことがわかります。また、直前の台風15号では千葉県を中心に風による被害が見られたためか、「雨」よりも「風」というキーワードが多く見られました。

一方で中～高層階の方からは「安心・大丈夫」という文字も見られました。

事前対策は多くの方が実行

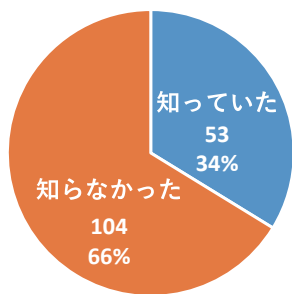


事前にテレビなどで「大きな被害をもたらす台風」と報じられていたこともあり、9割近くの方が何らかの対策をしましたと回答しました。

具体的な対策としては断水や停電への備えのほか、直前の回答で多かった「風」に関連して、バルコニーの片付けや窓ガラスにテープを貼るなどの対策をした方が多かったようです。

洪水ハザードマップで想定される浸水深が知られていない

最大5mの浸水想定であることを

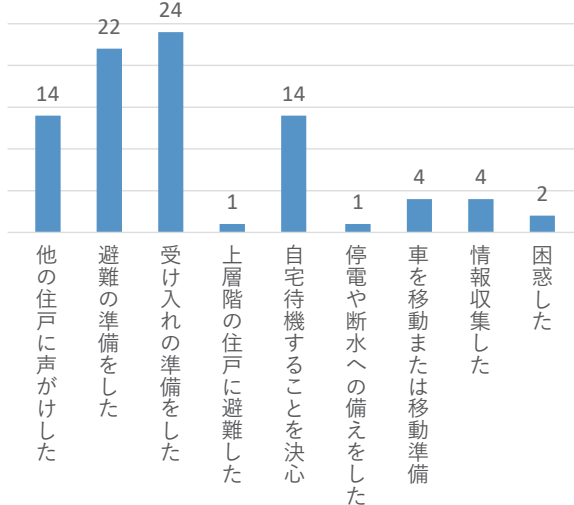


狛江市のハザードマップ多摩川氾濫版では、パーク・ハイム狛江の敷地は3m～5mの浸水と予測しています。これは建物でいうと2階まで被害が及ぶ深さです。約3分の2の方はご存知ありませんでした。

数年前の旧版では1m～2mの浸水予測となっていたので、「5mとは知らなかった」と書かれた方も見られました。狛江市防災ガイドやウェブサイトでいま一度ご確認ください。

一斉放送は意味があったのか？

一斉放送を聞いてとった行動



多摩川が川幅いっぱいになるまで増水した16時頃、一斉放送で「低層階の方は身の危険を感じたら上層階へ」と注意喚起を行いました。新しいインターホンは一斉放送が聞きとりやすく、在宅中のほぼ全部の方が「聞いた」と回答しています。

初めてのことで、どうしていいかわからないという方もいらしたようですが、低層階の方は避難の準備をするきっかけとなり、上層階の方は1・2階の方に声をかけたり、誰か来るかもと部屋を片付けるなど、受け入れ準備をしたという方もいました。避難勧告発令後は、さらに5名の方が実際に上層階宅に避難したと答えています。

今後このような状況になった場合に戸惑うことなく避難・受け入れできる体制づくりが必要と感じました。

自由記入のご意見も多くいただきました

表面には約3割の方がご意見を記入され、約2割の方はさらに裏面に詳細にご記入いただきました。ここではその中からほんの一部を紹介しますが、寄せられたご意見は今後の防災対策チームの活動の参考にさせていただきます。たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

土のう積みをしていなかったことを知らなかった。一斉放送で手伝える人を募るといいのでは。

小杉の報道を見て他人事じゃないと思いました。今後は防災訓練の際に、水害のときどう行動すればいいのか、上層階で余裕のある人がどうお手伝いできるのかなど、共有できると嬉しいです。

避難所は人口から考えてスペースが十分ではないと思っていたので、非常時は上層階の方に助けてもらおうと思っていた。なので館内放送があったときはとてもありがたかった。

下の階の人が垂直避難をしなければならぬ場合、上の階の人と多少でも顔見知りであれば違うのかもしれない。

防災訓練の時などに上下階の人たちが顔を合わせておくこともよいのでは。

一度でもマンションが被災すれば資産価値が一気に下がるので、多少費用を使ってでも有効な対策を施す必要があると思います。

また、周辺のコミュニティーとの連携、狛江市との協力のもと、河川の整備を進める提言をしていきたい。

全館一斉放送は適切であったと思います。ただならぬ状況になっているという緊張感が走りました。我が家は大丈夫という根拠のない思い込みで避難が遅れるケースも多かったようです。

1階の電気室の存在を知りませんでした。停電して館内放送ができなかったら、どのように行動すべきかもっと迷っていたと思う。

国土交通省関東地方整備局のライブカメラがパーク・ハイムのすぐそばにあるので水位をチェックできてよかった。

